

森井もとし県議、中国がん治療の現状を視察 2017年9月12日

《大連医科大学付属第二医院》  
 院長代理 劉氏  
 看護部長 総務部長 他医師2名のスタッフと面談  
 医師数 900人  
 看護師 1,600人  
 患者2人に1人担当  
 患者数 6~7,000人来院/日



◆院長代理 劉志宇氏

◆大連医科大学付属第二医院 訪問  
 院長代理 劉氏  
 看護部長 総務部長他 医師2名のスタッフと面談  
 医師数 900人  
 看護師 1,600人 患者2人に1人担当  
 患者数 6~7,000人来院/日  
 ベッド数 2,400床 不足ベッド数1,600床  
 医療費負担 ・高齢者10% ・一般・30%  
 特殊治療 100%本人負担  
 MRI 4台稼働中 予約4日前に申し込む 保険適用有

◆訪問メンバー  
 愛知県議会議員 森井もとし  
 愛知商工連盟協同組合 理事長 鹿島 均  
 愛知商工連盟協同組合 副理事長 長谷川 道春  
 橋村長城

中国大連市 大連医科大学付属第2病院院で会談



中国のがん患者数1日7,500人 年間280万人!  
 中国では、肺がん、食道がん患者が急増している

大連市では、がん治療の最先端治療施設 放射線治療・重量子線/陽子線の施設はなく、現在計画中であるが導入は中央政府が管轄している。

森井県議からの提案 <放射線治療患者の送出しと医師の交流を！>

愛知県では、中国のがん患者受入れ体制はできている、中国医科大学付属病院でがん患者を日本へ送り出す体制を作り、重症がん患者の生命を救っていただきたい。

まず医師の交流から

病院サイドでは、まずがん治療にかかわる専門医師の交流を望んでいる。中国人医師に日本の先端がん治療の現状把握、医療技術の研修。情報収集を行いたい。医師の交流はアメリカ、ドイツ、韓国と技術交流を主に行っている

愛知県と連携しメディカルツーリズムの企画も

最先端の放射線治療施設と技術をもつ愛知県・名古屋市へ中国からがん患者を受け入れるメディカルツーリズムを計画。医療先進国の日本での治療を望む患者は多い。大連医科大学付属病院の医師が患者のデータを日本に送付、日本の医師の所見、検診を経て治療を実施するもの。

長谷川副理事長 大連市職業技術学院 訪問 2017年9月13日

《公立大連市職業技術学院》  
 学院長 沙 颯 氏 と面談  
 創立 1973年 教師 400人  
 介護コース学生数 1学年100名 3年教育 300名  
 学費 5,000元/年間  
 卒業生(全学部) 50,000名以上 公務員・産業界で活躍

- ◆研修科目  
 <老人介護・サービス・管理><CP技術><NCマシン操作>  
 <船舶工程管理><物流管理><旅行涉外><ビジネス日本語>  
 <建物管理><ホテル運営管理><車両修理・検査>
- ◆中国国内の就職先  
 大連、北京、天津、南京、瀋陽など全国の施設で活動し、高い評価を受けている
- ◆中国国内の報酬(介護士)  
 新卒 3~5,000元 2年以降 5~7,000元
- ◆訪問メンバー  
 愛知商工連盟協同組合 副理事長 長谷川 道春



即戦力の介護士・技術者の実践教育に重点!



急速な中国の高齢化、高齢者2億人を突破!  
 中国の高齢化率15年9.8%から35年には20.3%に上昇  
 中国国内でも介護士が不足している。  
 本学院では「日本式介護」をカリキュラムに取入れ介護人材の育成を進めている。  
 介護技術とサービスの評価を高め、中国国内や日本での就労を目的に人材を送りだし、介護現場の人手不足の解消につなげている。



◆介護士専門コース

高齢者サービス管理を主に専門職の教育を行っている。教員は医療・介護の専門家他、老人ホームでの実務経験者を採用し、実体に合った教育が特徴。「明るい、優しい、辛抱強い」人づくりを目指している。

高齢者の汚物処理の実習の他、生活上の世話をする授業を行っている。老人ホームでの研修、教育を行い即戦力の人材育成に特化している。終了後の資格 高級養老看護員

日本語教育に重点を置く  
 日本の深刻な人材不足状況に対応するため、日本語検定3級の習得を目的に日本人の教師の招請に取り組んでいきたい。「愛商連」との連携を視野に入れたい。

学生の優れた介護技術が根付き、キャリア形成の道が拓けば、日本での介護人材の安定的な確保につながり「ウイン-ウイン」構想が急ピッチで進むことになる。